

## ●2024年度精密工学会秋季大会シンポジウムのご案内【大会第3日開催】

# ものづくりの価値創造を目指したデジタル革新の実践

ものづくりにおける高精度化、高機能化、知能化および自律化は常に重要な課題であり、デジタル革新(DX)によるこれらの真の達成と新たな価値創造への展開が期待されている。本シンポジウムでは、総合生産システム専門委員会のスケールメリットを生かし、企業での生産プロセスとシステムにおけるDXの先端的取り組みを紹介いただき、ものづくりの新たな価値創造を探る。

企画 精密工学会 総合生産システム専門委員会

開催日時 2024年9月6日(金) 13:00 ~ 16:15

会場 岡山大学津島キャンパス 秋季大会講演室G (一般教育棟 B棟 3階)

※※大会参加の方はどなたでも参加できます。

## プログラム

司会 摂南大学 諏訪 晴彦 (総合生産システム専門委員長)

時間	講演題目	講演内容	講師
13:00~13:05	開会の挨拶とシンポジウム趣旨説明		
13:05~13:45	JFEスチールにおけるDX活用事例と人材育成戦略~インテリジェント製鉄所実現に向けて~	近年、生成系AIを代表とする革新的なデジタル技術の進展など、企業の持続的成長にはデジタル技術の活用が不可欠である。本講演では鉄鋼業を取り巻く環境からJFEスチールにおけるDX戦略、具体的な事例と最後にDX人材育成戦略についても述べる。	JFEスチール株式会社 DX戦略本部 インテリジェント技術開発部  吉成 有介
13:50~14:30	機械加工のインプロセスモニタリング技術と現場でのデータ活用	現在の製造業において、人材不足が顕著になっていくなかで効率的かつ精密な生産を実現するためには、インプロセスデータの利用が不可欠となってくる。そこで弊社は、現場でも活用できるワイヤレスデバイスと、デバイスから取得したデータを元に工作機械を適応制御するためのソフトウェアを開発した。本講演では、切削加工の様々なシーンでの活用事例を紹介する。	株式会社山本金属製作所 営業部営業企画課 兼 研究開発G  松田 亮
14:35~15:15	ユーザビリティに特化した切削RP(ラビッドプロトタイプング)装置の開発(Labonos)	製品開発において迅速な検証と評価が求められる中、解決手法の一つとしてAM装置を用いた部品製作がある。一方、切削加工機の場合、工具、材料、加工プログラムが必要であり、取扱者の高度なスキルが求められる。本講演では、これらの熟練スキルを不要にし、3Dデータのみで部品製作が可能な切削RP装置について紹介する。	安田工業株式会社 取締役/技術部  大下 功
15:20~16:00	ものづくりDXを推進する外観検査自動化への取り組み	ものづくりにおけるDX活用においては、「ものの流れの見える化」と並行して「品質の見える化」が肝要である。製造品質を定量化・モニタリングし製造工程改善へ繋げるために、工程内検査・完成品検査技術の高度化が求められている。本講演では、ものづくりDX活用を推進するための外観検査自動化の取り組みを紹介する。	川崎重工株式会社 技術開発本部 システム技術開発センター 自動化システム開発部  山角 寛
16:00~16:15	総合討論		

※※プログラムは変更となる場合がございます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。